

安全で安心な福祉のまちづくりを目指して

関ヶ原の概要

関ヶ原町は、県の西端に位置し、「壬申の乱」や「関ヶ原の戦い」等天下分け目の戦いが繰り広げられた場所として有名です。

平成29年7月1日現在、人口7,283人で2,742世帯が、豊かな緑と史跡に恵まれた町で暮らしています。古来は中山道や伊勢街道等交通の要所として栄え、現代も観光・産業（紡績工場、大理石工場、林業等）で発展してきました。しかし、工場の撤退などにより人口が減少を続ける一方、定年退職後実家に戻る人もあり、ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯が増加し、高齢化率37%と高くなっています。今後、人口の自然減と社会移動の流出をいかに抑制していくかが課題となっています。

近年は県の援助を受け、古戦場の魅力を発信する「関ヶ原古戦場グランドデザイン」がはじまり、駅前観光交流館「いざい関ヶ原」の完成や、陣場野公園、笹尾山等の古戦場が整備されました。これにより若い観光客も徐々に増え、少しずつ活気を取り戻しつつあり、今後の新たな環境の変化による町の展望に注目しています。

関ヶ原町民生委員児童委員協議会について

関ヶ原町民生委員児童委員協議会は、民生委員児童委員20名と主任児童委員2名の22名で構成し、高齢者や子育て中のお母さん、また、障害をもって

関ヶ原町民生委員児童委員協議会の取組み

いる方等、日々頑張っている人が安心して生活できるよう「福祉のまちづくり」を重点とした活動を行っています。高齢者部会、困窮者自立支援部会、障がい者部会、子育て支援部会、研修・企画部会の5部会が設置され、年1回行事として視察や研修会等をそれぞれの部会をもって計画し、全員で参加しています。



＝ 交換意見研修会
＝ 高齢者部会
＝ 事例研修
＝ 関ヶ原町役場

高齢者部会は、地域包括支援センターが携わった高齢者の事例をもとに意見交換を行い、今後の活動の参考にしました。

困窮者自立支援部会は、町社会福祉協議会主催の認定NPO法人セカンドハーベスト理事長による講演会「フードバンクが生活困窮者を救う」に参加し食のセーフティネットについて学びました。

障がい者部会は、小規模授産所「さくらんぼの家」で、年4回自立に向けた事業の一環として行われる調理実習に参加し、所生さんのサポートを行っています。

子育て支援部会は、町の事業である子育てコミュニティや乳幼児検診に参加し、指導員や母子推進員のサポートを行っています。

研修・企画部会は、災害時に備え県の防災センターで、地震の揺れや災害時の対応等を体験し、災害への備えの大切さを感じました。



＝ さくらんぼの家で調理実習に参加
＝ 町内の小規模授産所

ネットワーク活動への取り組み

ひとり暮らしの高齢者や高齢者世帯の見守り活動を重視し、行政や社会福祉協議会と連携し、自治会、国保保健福祉総合施設やすらぎ、福祉推進委員、老人クラブ等のボランティア団体と情報を共有し、見守りネットワーク活動に協力し、高齢者が安心して暮らせるよう、積極的にサポート活動をしていきたいと考えています。

また、社会福祉協議会が本年度から始めた「困りごとサポート事業」の活動にも参加し協力していきたいと思えます。

認知症予防への取り組み

地域包括センターが、月1回高齢者を対象とした「認知症カフェ」を開催していますが「まだ認知症では・・・」と参加を拒む人もいます。

そこで、みんなが楽しく気楽に集え

ることが認知症予防につながると思えます。町社会福祉協議会の協力を受け、民生委員児童委員が中心となり、他のボランティア等に参加を呼びかけ、ボランティア団体「憩いの郷あん」を立ち上げました。

毎週月曜日公民館で、午前9時から11時30分まで参加費1000円でコーヒーとお菓子を提供し、おしゃべりしながら楽しい時間を過ごしています。

最初は40名ほどでしたが、現在では約70名が利用しています。

これからも、気軽に立ち寄り、楽しい時間を共有し利用する人が「ほっ」とできる居場所になりたいと思えます。



＝ 郷あんの立ち上げカフェを開催
＝ 中央公民館

福祉ガイドブックの発行

平成28年3月、全国民生委員互助共励事業による指定民生委員児童委員協議会の事業計画の一環として福祉情報を記載した「福祉ガイドブック」を発刊しました。これからの情報の更新のため2年毎に発行していきたいと思えます。

こうした活動を通して、関ヶ原町の現状を知っていただくとともに、高齢化社会の「福祉」へのあり方について、地域住民と一緒に考え、支え合い、そして、見守り続けていきたいと思えます。